



食や栄養に関する高度な専門知識と技術で患者さんにより良い治療を。

臨床栄養科のご紹介

食の大切さが注目される現代医療において、管理栄養士の役割が広がっています。病院食の献立作成だけでなく、患者さんの病状に応じて、病気の治療や合併症の予防などを栄養面からサポートすることが重要となっています。今回は患者さんの気持ちに寄り添って栄養管理を実践している臨床栄養科の紹介です。

— 臨床栄養科としての思いをお聞かせください。

容の方針で「臨床栄養科」としています。

梅村科長 栄養管理は疾病治療の一環であり、病態に見合った適切な食事の提供や栄養の補給を行うことで患者さんの回復につながるの思いで業務を行っています。

— 診療科の一つみたいな位置付けですね。NST(栄養サポートチーム)の導入も早かったのですか。

— 「栄養科」ではなく「臨床栄養科」と掲げている意図は。

田所主任 糖尿病や腎疾患など、すでに院内にチーム医療が確立していましたので、全国的にも早く始められたと思います。

梅村科長 当院では開院時から管理栄養士は病棟で患者さんを見るのが大切だと考えてきました。食事作成などの給食管理は業務委託して、臨床に力を入れた業務内

— NSTとして担当する診療科は。

田所主任 チームは専任の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士で構成され、全科の入院患者さんを対象にしています。

院内の組織としては、医師をリーダーに各病棟の看護師、専任チームのメンバーのほか、理学療法士、臨床検査技師、事務職等も参加しています。嚥下機能に問題がある患者さんには、

言語聴覚士と連携して機能に合わせた食形態の調整を行ないます。口腔内に問題のある患者さんには、地域の歯科医師会を通して歯科医師や歯科衛生士とも連携し、口腔内の状態を良くして安全に食べられるよう取り組み、栄養状態の改善につなげています。

— どれくらいのペースでNST活動をされていますか。

田所主任 まず、入院時のスクリーニングで栄養状態に問題がありそうな患者さんを使い早く見つけ、病棟単位で小さな回診を毎週必ず行っています。そこでは患者さんの栄養評価を行い、栄養状態を良好・軽度・中等度・高度と4段階で分け、中～高度の患者さんは、別に専任のメンバーと週2回の回診を行い最適な栄養療法について検討します。

— 管理栄養士の他に何か資格を取得されていますか。

梅村科長 日本静脈経腸栄養学会のNST専門療法士の資格を全員が取得し、NSTの専任チームに参加しています。日本糖尿病療養指導士認定機構の糖尿病療養指導士を持っている職員もいます。

— 「がんと免疫」について臨床栄養科が取り組んでいることはありますか。

梅村科長 がん治療によって食事摂取が難しい患者さんに少しでも食べてもらいたいので、患者さんにアンケートをお願いし、喫食状況を調査して作りあげた「ホスピ食」という病院独自の食事があります。また、がん治療のみならず食事が進まない患者さんとはよくお話をし、疾患や症状に合わせて食事の形態を変えたり、食べやすい食事や栄養補給ができるよう栄養補助食品を提案して、患者さんが栄養状態を落とさずに治療できるようにサポートしています。

— 対象患者さん一人ひとりに見合った食事を提供しているということですね。一般の入院患者さんの食事についてはどうですか。

梅村科長 一般食(常食)に限り2定食から選択できます。温かいものは温かく、冷たいものは冷たくお出しています。

— 糖尿病の教育指導はほとんど食事のイメージですが。

梅村科長 チーム医療が定着している糖尿病療養指導は、1週間の教育入院がクリニカルパスになっており、医師の指示のもとで看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、管理栄養士がそれぞれの専門領域で療養を支援します。月1回の糖尿病教室も各職種が交代で担当しています。管理栄養士は、患者さんが良好な血糖コントロールと合併症予防や悪化を防ぐために、実行・継続できる食事療法と一緒に見つけられるように関わっています。

— 透析患者さんもかなり栄養面が大事ですよ。

梅村科長 長期に渡り良好な栄養状態で治療を継続するためには、食事を適切に食べていただくことが重要です。患者さんの話をよく聴き、必要な時に適切な情報提供ができるよう心がけています。何かあったら「ちょっと教えて」と言ってもらえるような、そんな関係でありたいと思っています。

— 地域連携・病診連携の中で、臨床栄養科として大きな役割を担っていますよね。

梅村科長 嚥下機能に問題がある患者さんの食事は、病院や施設ごとに名称が異なり適切な形態が伝わりにくい問題がありました。そのため、転院先への連絡に使用する嚥下調整食一覧表には、学会による統一された分類も表示するようにしています。退院時に施設の管理栄養士と直接話をしたり、電話でやりとりすることもあります。

— 日々、栄養学もどんどん変化していますよね。

梅村科長 学会や研修会などに参加し、最新の情報を得て臨床に活かしていくよう努力しています。現在は、インターネットからさまざまな情報が得られますが、患者さんに正しい情報を届けることが大切だと思っています。

— 科としての勉強会などはありますか。

梅村科長 学会などの情報を勉強会として部署内で共有しています。また、学会発表にも取り組んでいます。発表に向けて調べたり、まとめたりすることはとても勉強になります。

— 臨床栄養科としての今後の思いは。

梅村科長 院内ではNSTや糖尿病のほか、摂食嚥下、緩和ケアや心不全など多くのチーム医療の中で、栄養の専門職として役割が果たせるように研鑽し資質の向上に努めています。また、退院後の患者さんが、地域に戻られてもより良い栄養状態を維持できるように、在宅医療や施設との連携にも取り組んでいきたいと思っています。

— 地域の皆さんへのアピールをお願いします。

梅村科長 臨床栄養科の扉には「気軽に相談してください」とのメッセージを貼っています。栄養や食事のことを気軽に話せる窓口でありたいと思っています。

栄養や食事のことで相談がありましたらお気軽に声をかけください。



臨床栄養科 主任 田所史江さん

臨床栄養科 科長 梅村聡美さん